ロータリーの翼

2013年3月13日～28日

中野　勝安

私は、6名の高校生とロータリーの翼研修でアメリカへ行くことになった。
前日、成田空港近くのホテルに泊まり、3月14日ダラスへ向け出発。約13時間30分の飛行である。時刻変更線を越え、大平原のダラス・フォートワース空港へ無事着陸した。

8年ぶりのフォートワースは懐かしかった。私は過去3回研修の引率をさせていただいた。

到着後の税関は、指紋を押す工程も加わり時間がかかった。以前より厳しくなったように思う。

Rains氏（元ガバナー）、スター氏（Rains氏の孫娘）、Tony氏（牧場経営）の3人が空港で出迎えてくれた。車で3時間もかけて来てくれたRains氏とは8年ぶりの再会であった。お互いに70代になり、時の流れを感じた。

今回の研修訪問は　4　ヵ所である。初めての町、Hugo町　と　Pittsburg町、以前お世話になったことのある、Mt.Vernon町　と　ClarksVille町である。

ヒューゴ町

アメリカ最初の訪問地ヒューゴ町では、学校（インディアンスクール）の寮に宿泊した。この町での日本人研修生の受け入れは初めてということで、多大なお心遣いをいただいた。とてもフランクに接していただき、友情と親睦を深めることが出来た。

オクラホマ州ヒューゴ町は、ダラス・フォートワース空港から東北に車で2時間の所にある。人口約6000人の牧畜の盛んな町である。

あるロータリアンは、400エーカーの牧場に140頭の牛を飼育しているという。この町周辺には、2年前からほとんど雨が降らず牧草が枯れ、「牛の飼育が大変」と嘆いていた。研修生たちは広大な牧場に、ただただ驚くばかり。

オクラホマ州は、天然ガスがたくさん取れるため経済は豊かであるが、昔から牧畜も盛んである。

アメリカは、地震が少ないが竜巻が発生する。その備えとして、各家庭には地下室があり、避難場所になっている。どの家も2階建てではなく平屋で、やはり竜巻に備えた建物であった。その土地に住む人たちの経験と知恵でしょう。室内は、生活を楽しむ様子がうかがえるすばらしいインテリアだった。

マントバーノン町

8年目に訪れた町だったので、親しみと懐かしさを覚えた。受け入れ先はThamaes　氏（退役軍人　74歳）宅。彼はとても優しく、冷静でいつも平常心でいる人だった。その人柄か、交友関係が広かった。

ピッツバーグ町

マントバーノン町から車で30分の所にある。今回初めて私たちのロータリー交換を受け入れてくれた町である。

パーティの席で、研修生達と私はスピーチをした。何回目かのスピーチなので、研修生も英語に慣れ良い交流が出来た。

町の人達は、私たちが日本のどのあたりから来たのか？　岩手県はどこにあるのか？　わからない。

そこで、東京から北方に400マイル（約600km）、2年前の津波で被災した岩手県から来ました。と説明し、持参したDVD「岩手は半歩歩き出す」をパーティ会場で全員で観た。みんなの驚きは大変なものだった。

私はスピーチで、「東日本大震災の際、多くの国々からご支援・ご援助をいただきました。アメリカからの義援金が最も多かった。アメリカの皆様に心から感謝申し上げます」とお礼を申し上げた。

この町の町長　Mr.Shswn Kennington氏　を表敬訪問した。

ロータリアンの方々は、私たちが遠く日本から来たということで一生懸命歓迎してくれた。その親切さが身にしみた。

クラクスビル町

この町とマントバーノン町の交換事業は20年以上続いている。

研修生は2名一組でそれぞれのホームスティ先へ。異文化の中での生活に疲れが出るころ。言葉を交わすのが辛そうな研修生もいた。残された日を、事故なくと願った。

ガバナー夫妻主催のパーティに参加。男性ロータリアン手作りの料理に感激し、おいしくいただいた。食事が終わると、みんなそれぞれ家路につく。日本のように、二次会、三次会などない。お互いの国のライフスタイルに触れるのはとても良い経験だと思う。

最終訪問地クラックスビル町で、4日間お世話になった。その後2台の車に分乗し、ダラス空港近くの宿泊地へ送ってもらった。

3月28日、無事帰国。

異文化に触れた16日間

西部劇に出てくるような風景、護身用の銃を持つ社会、レディーファーストの生活習慣、気どらないパーティなど、実際に見て、聞いて体験した。違いを知ることの大切さも学んだ。

この経験を糧として、研修生は未来に向かって羽ばたいてください。私は、地域に還元できるよう努力したい。

今回の研修で、アメリカでお世話になった多くの方々。研修を企画して送り出してくれたロータリーアンの皆さん、そして行動を共にしてくれた研修生の皆さんに感謝申し上げます。